



2017年度 上期決算説明会

2017.11.13

明治ホールディングス株式会社

1. 2017年度 上期総括

2. 2017年度 下期・通期見通し

- ・本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- ・本資料には、医薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。



1. 2017年度 上期総括

2017年度 上期連結実績



(単位:億円)

	16年度 上期実績	17年度 上期計画	17年度			
			上期実績	計画比	前年同期比	
連 結	売上高	6,067	6,114	+0.4% +24	+0.8% +47	
	営業利益	373	451	+9.0% +37	+20.9% +78	
	営業利益率	6.2%	6.8%	7.4%	+0.6pt	+1.2pt
	親会社株主に帰属 する四半期純利益	243	260	314	+20.9% +54	+29.2% +71
	EPS	165.20円	178.55円	216.33円	+37.78円	+51.13円
	1株当たり配当金	45.00円	57.50円	57.50円	—	+12.50円
	有利子負債	1,444	—	1,396	—	△48
	設備投資額	233	332	348	+16	+115

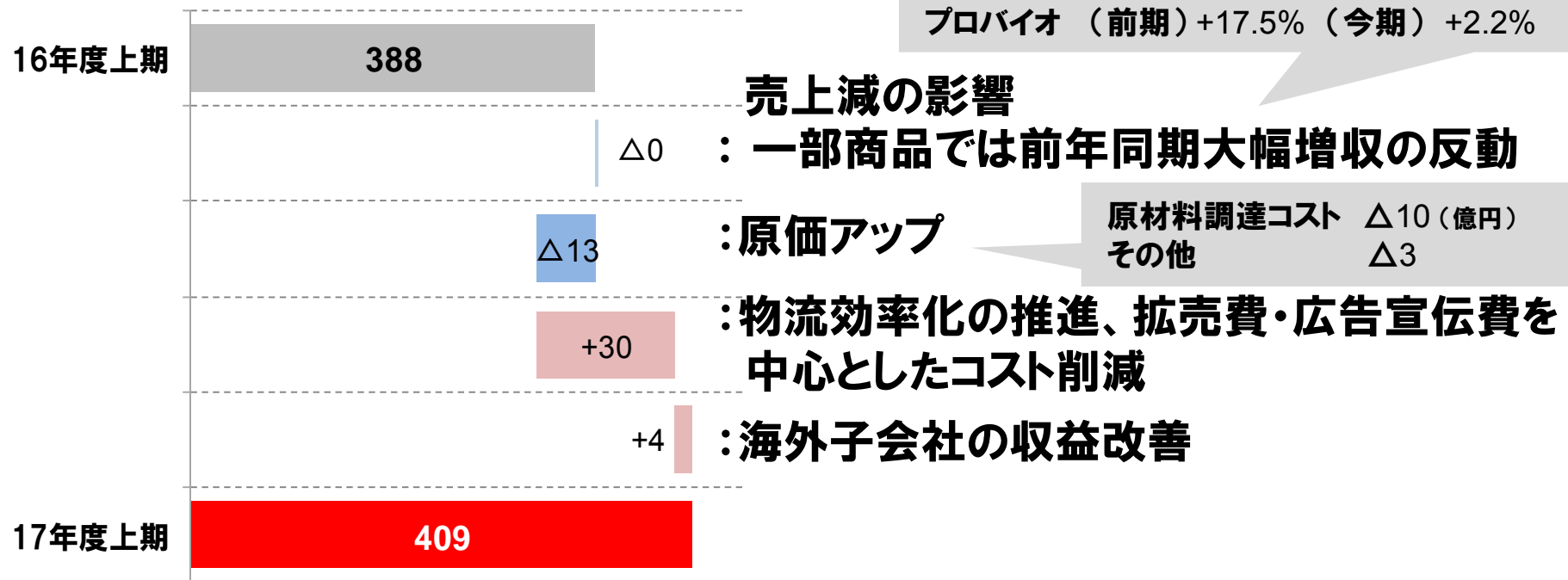
- 売上高はほぼ計画通りに推移
- コストコントロールの奏功や為替差益・固定資産売却益の発生などにより計画以上の増益に

(単位:億円)

		16年度 上期実績	17年度 上期計画	17年度		
				上期実績	計画比	前年同期比
食品	売上高	5,352	5,310	5,342	+0.6% +32	△0.2% △10
	営業利益	388	388	409	+5.4% +21	+5.4% +20

営業利益増減分析

(億円)

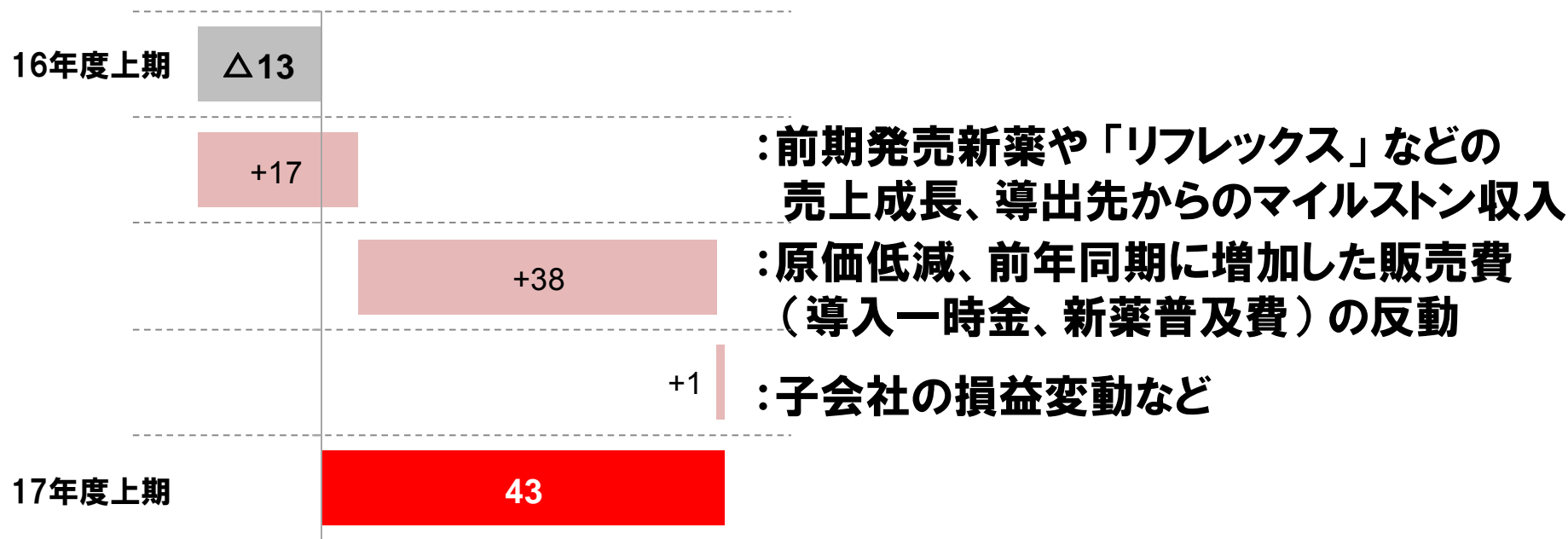


(単位:億円)

		16年度 上期実績	17年度 上期計画	17年度 上期実績		
				計画比	前年同期比	
薬品	売上高	721	790	777	Δ1.5% Δ12	+7.8% +56
	営業利益	Δ13	27	43	+61.3% +16	— +56

営業利益増減分析

(億円)





2. 2017年度 下期・通期見通し

2017年度 連結計画



(単位:億円)

	16年度 実績	17年度 期初計画	17年度		
			修正計画	前年同期比	
連結	売上高	12,424	12,610	12,623	+1.6% +199
	営業利益	883	945	965	+9.2% +81
	営業利益率	7.1%	7.5%	7.6%	+0.5pt
	親会社株主に帰属 する当期純利益	607	610	645	+6.2% +37
	EPS	413.11円	414.56円	443.88円	+30.77円
	1株当たり配当金	110円	115円	115円	+5円
	配当性向	26.6%	27.7%	25.9%	△0.7pt
	ROE	14.2%	13.2%	13.9%	△0.3pt
	設備投資額	504	669	710	+206

- 上期進捗を踏まえて通期計画を修正
- 利益貢献額の大きい3Qの動向が計画達成のカギ

(注1) 17年度期初計画は17年5月12日、修正計画は17年11月8日に発表
 (注2) 自社株式取得を17年2月7日に発表。取得期間は17年2月8日～7月14日。
 ROEは、16年度実績は3月末までに、17年度計画は7月14日までに取得
 した自己株式を反映して算出した数値

キャッシュ・フローの配分等に関する考え方

収益性の着実な向上
利益率だけでなく利益額も成長

営業CF

利益増による安定的な
キャッシュ・フローの創出
17年度計画
918億円

投資CF

17年度計画 648億円

「STEP UP 17」当初計画よりも業績好調につき
成長のための投資を前倒して実行

- ・コア商品の生産能力増強
- ・生産体制の最適化
- ・食品新研究所の建設 など

株主還元

17年度配当 115円（5円増配）

中長期的な事業見通しを踏まえ、連結配当性向
30%を目安に、安定的継続的な利益還元

有利子負債

17年度見込 D/Eレシオ 0.26

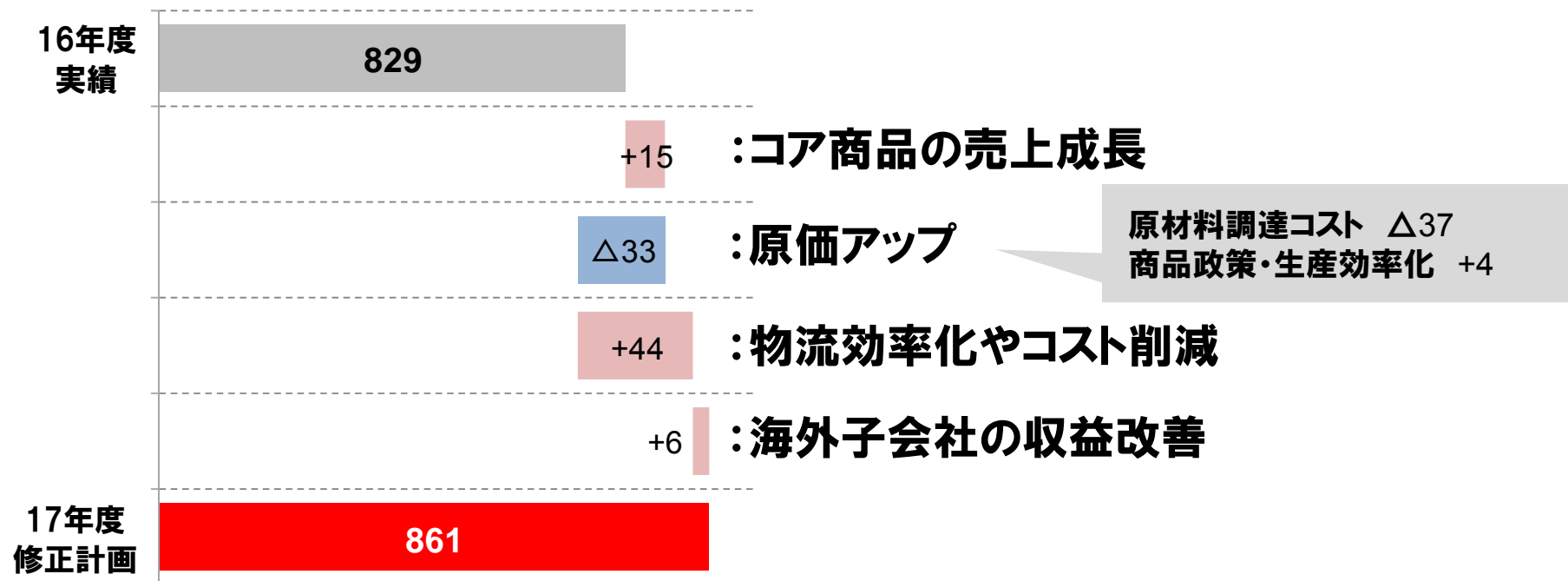
将来の成長投資のための財務基盤強化を図る

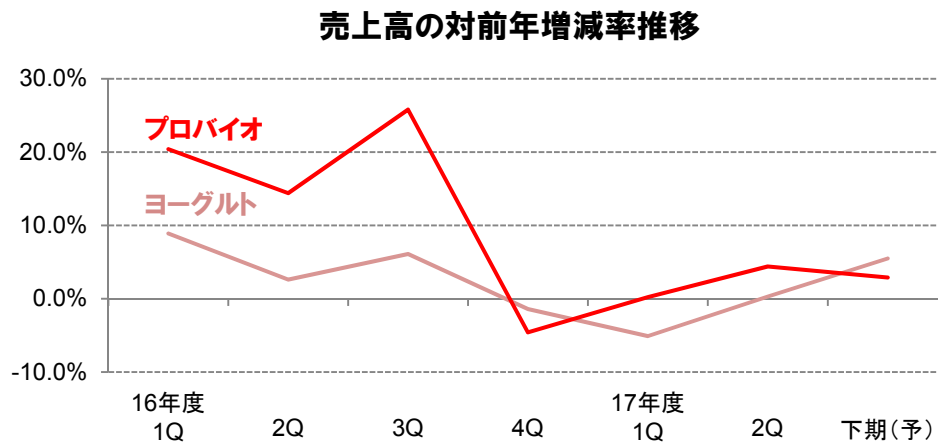
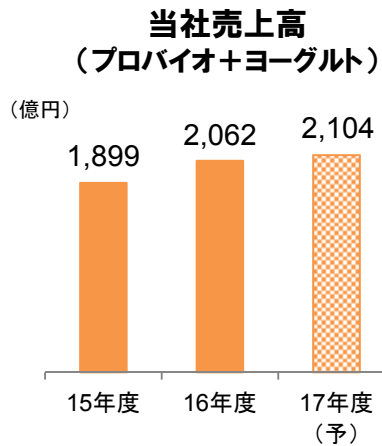
(単位:億円)

		16年度 実績	17年度 期初計画	17年度 修正計画	前年同期比
食品	売上高	10,821	10,870	10,902	+0.8% +81
	営業利益	829	840	861	+3.8% +32

営業利益増減分析

(億円)





【市場動向】

メディア露出増でライトユーザーが増加し、16年度は拡大。17年度はその反動が見られる

● プロバイオ

ブランド別の課題をクリアし安定成長を実現

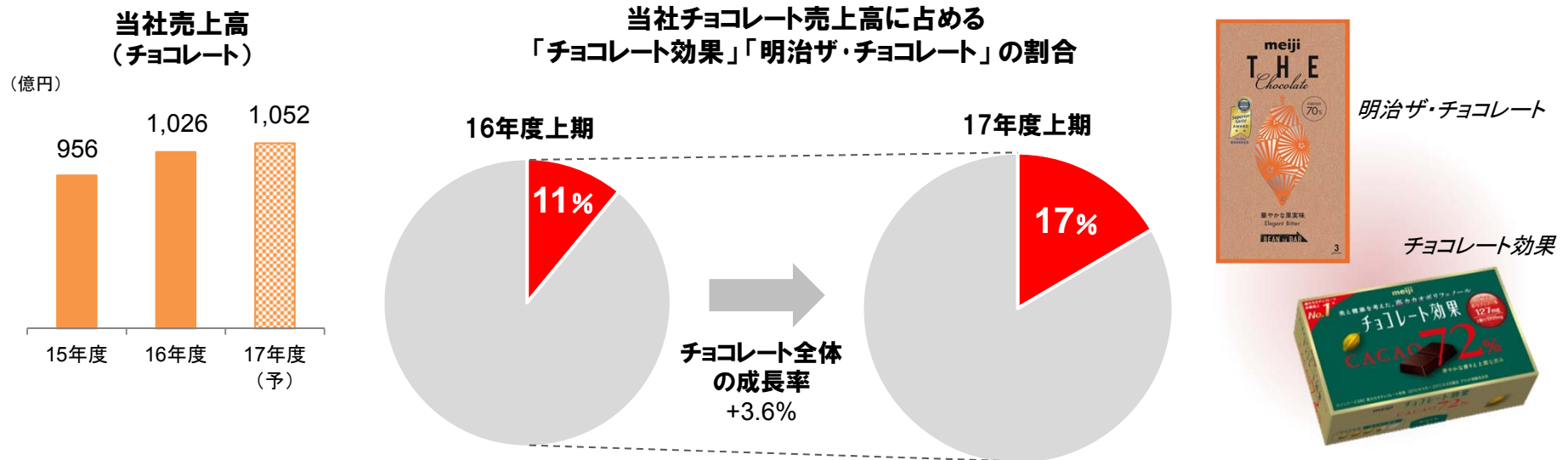
- LG21
「胃で働く乳酸菌」をキーフレーズに、
OLL2716乳酸菌の特長を伝える
新たなマーケティングを開始
- R-1
下期に新商品3品を投入
積極的なマーケティングでさらなる拡大へ

● ヨーグルト

「価格訴求ではなく価値訴求」を継続

- 「明治ブルガリア」ブランドは、
トクホ取得のプレーンやドリンクなどを軸に健康価値を訴求
- 新たな食シーンの提案などで需要を拡大





- 付加価値の高い「チョコレート効果」「明治ザ・チョコレート」が大幅増となり、チョコレートカテゴリ内でのプロダクトミックスが改善
- 「健康」「プレミアム」分野は力強い需要が続く見通しであるため、さらなる成長に向けて生産能力を増強中
- “Bean to Bar”を実現する独自の強みで差別化し、市場をけん引

調達力

- 多種多様なカカオ豆の調達
- 持続的な調達のための取り組み



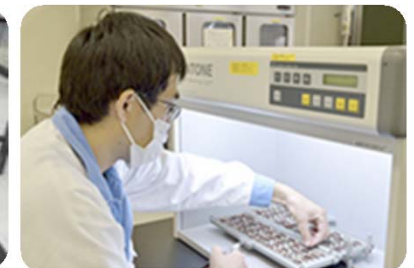
カカオ研究・生産技術

- カカオの健康効果に関する長年の研究
- カカオ豆の厳選、発酵、焙煎から成型までを一貫して生産する技術

競争力ある
商品

ブランド力

- “チョコレートは明治”



新パッケージの展開エリア
(17年11月現在)



旧容器



新容器



(容量: 1000mL)

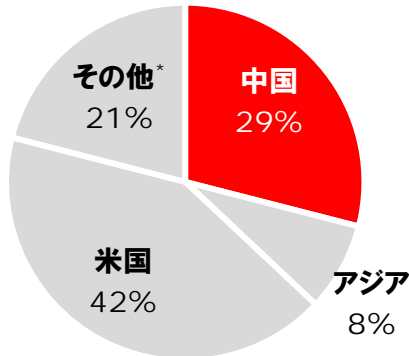


(容量: 900mL)



- 16年9月九州地区からスタートし、中部地区(17年10月17日)・関東地区(同年11月7日)まで拡大
- おいしさと利便性が支持されて堅調に推移
新たな展開エリアでも市場定着を目指す
- 新容器製造のためのライン増設やマーケティング投資も同時に実施

地域別売上構成比
(17年度計画円貨ベース)

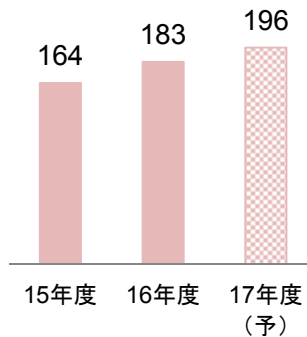


*日本からの輸出など



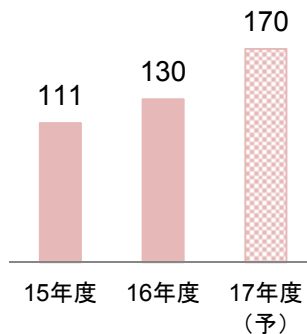
明治ブルガリアのむヨーグルト
プレーン／ブルーベリー味
(17年10月発売)

売上高(百万円)



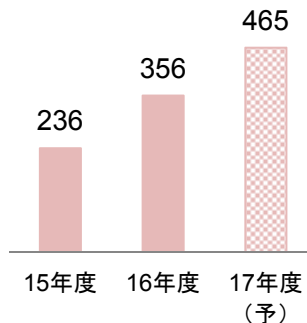
- 主力のチョコレート群が拡大
- 大都市(上海、広州、北京)での
拡販に経営資源を集中

アイスクリーム



- 販促強化と販売エリア拡大
- オフシーズンのコストコントロール
を徹底

牛乳・ヨーグルト



- チルド牛乳は特にCVSが好調
販売エリアも拡大
- ヨーグルトは現地・外資メーカーとの
競争あるが、プレーンタイプを中心
に着実な成長目指す

明治イノベーションセンター（八王子）

小田原研究所
乳・乳製品など

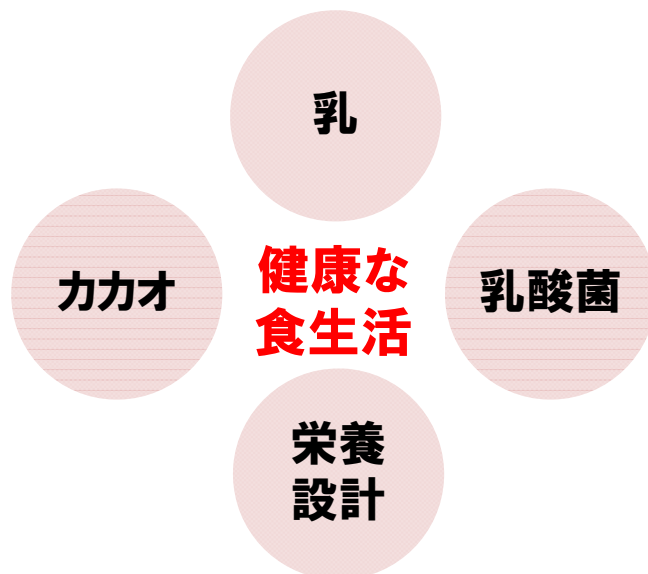
鶴ヶ島研究所
菓子など



- 17年11月完工
- 18年3月までに機能統合完了(予定)
- 投資額:約200億円

(完成イメージ)

重点研究領域



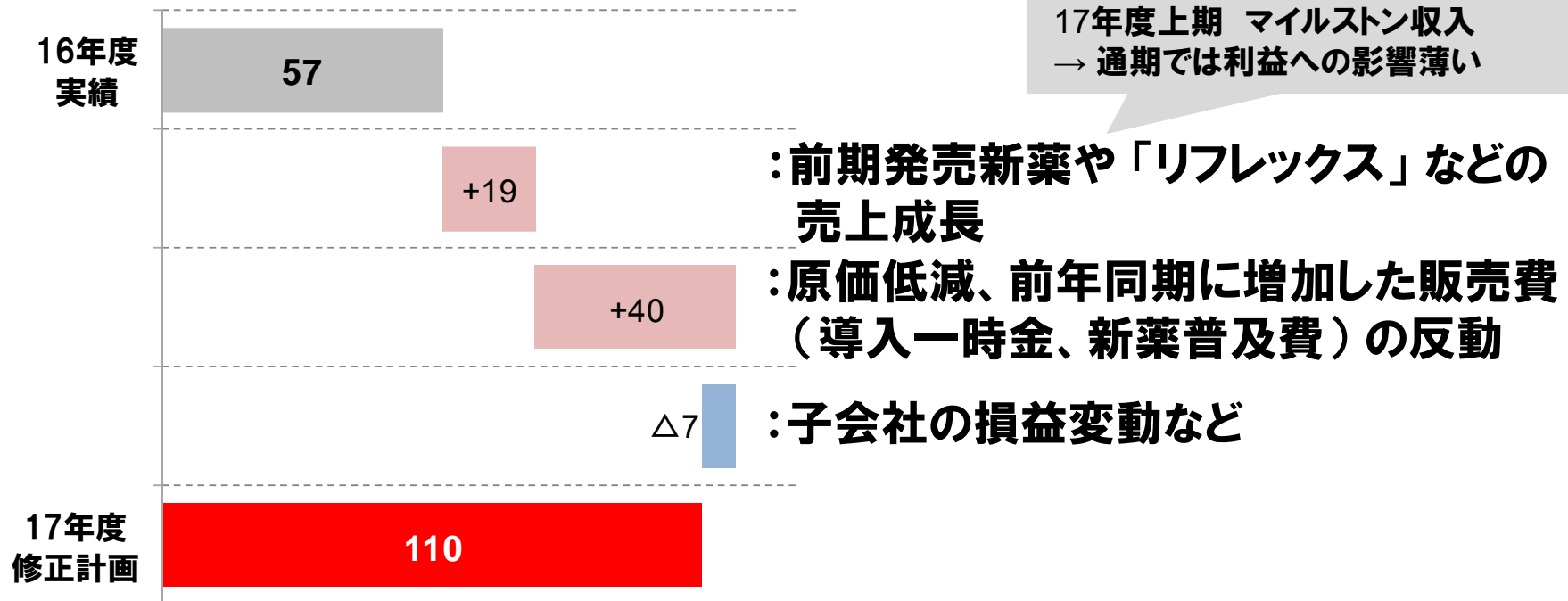
- 商品開発、食品機能、生産技術、品質科学研究まで、すべての研究開発機能を集約
- 研究開発部門の組織体制を見直し、新たな視点や長期的な視点での商品開発を促進
- 研究者・組織間の交流をより活発化
研究テーマに応じてチームを組成し、開発期間も短縮

(単位:億円)

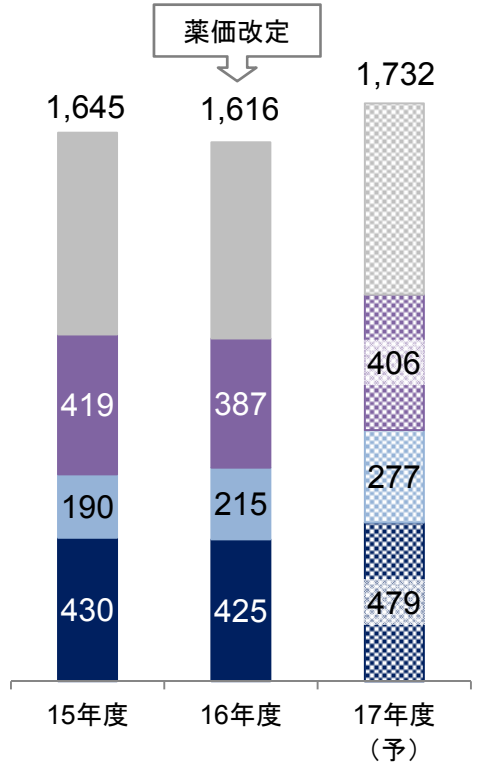
		16年度 実績	17年度 期初計画	17年度 修正計画	前年同期比
薬品	売上高	1,616	1,756	1,732	+7.2% +116
	営業利益	57	110	110	+90.3% +52

営業利益増減分析

(億円)



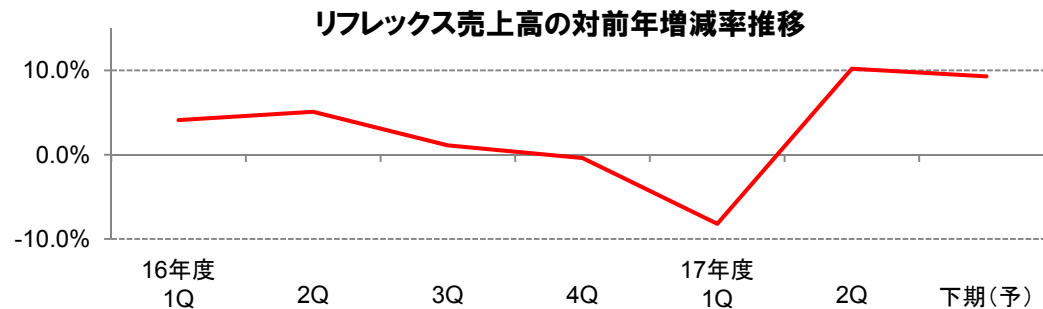
医薬品セグメント 売上高 (億円)



■ 国内 ジェネリック
 ■ 国内 リフレックス+シクレスト+ピラノア
 ■ 海外
 ■ その他

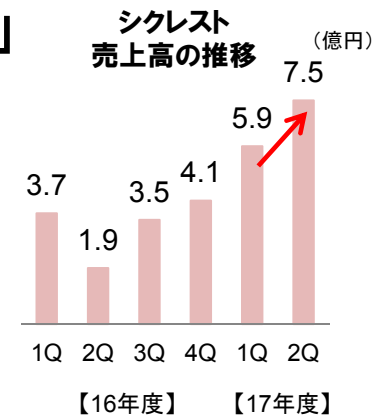
● 抗うつ薬「リフレックス」

国内うつ病患者を対象とした新規エビデンスを活用し、製品価値を最大化



● 統合失調症治療薬「シクレスト」

6月より投与制限解除
 処方拡大機会をとらえて普及強化

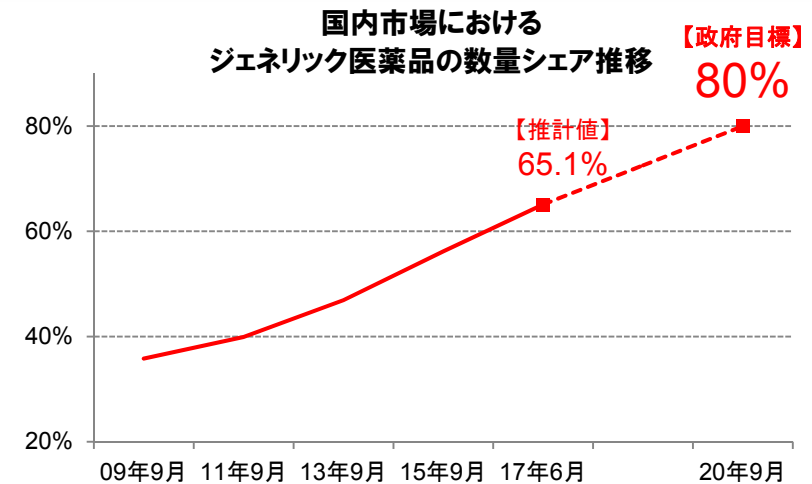


● アレルギー性疾患治療薬「ピラノア」

12月より投与制限解除

当社ジェネリック事業の新たなビジネスモデル

スペシャリティ ジェネリック	<ul style="list-style-type: none"> ・注射抗菌薬 ・内服抗菌薬 ・呼吸器領域 ・中枢神経系領域 	MRによる 情報提供 有
エッセンシャル ジェネリック	上記以外で安定供給 が求められる領域 <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣 ・消化器領域 	MRによる 情報提供 無



(出所) 厚生労働省ホームページ
「第134回 中央社会保険医療協議会薬価専門部会資料」

● 抗菌薬「タゾピペ配合静注用 明治」

・ 重点領域の1つ「感染症領域」の注射剤

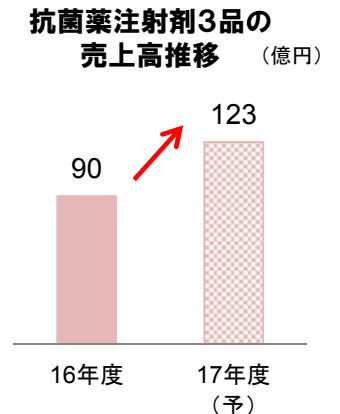
→ MRによる新薬とジェネリックの総合的な処方提案で

信頼を得てきた、プレゼンスの高い領域

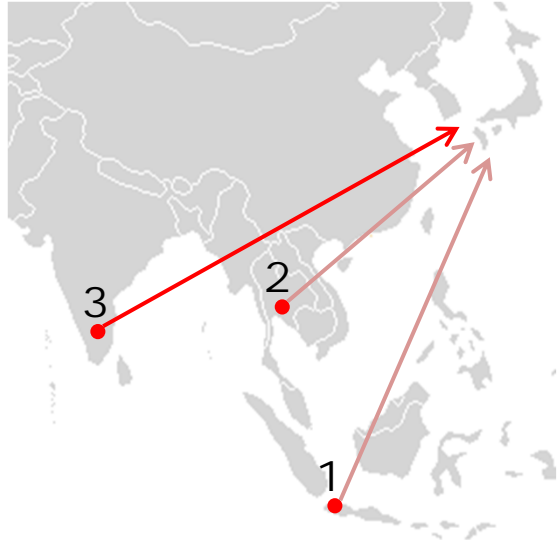
「タゾピペ」の他に「スルバシリン」「メロペネム」も展開

・ 市場におけるジェネリック化の加速の追い風もあり、大きく伸長

・ インドネシア子会社で製造



➡ ジェネリックは、今後の薬価改定に備えて原価低減を着実に進める

日本向け医療用医薬品の
主な海外生産拠点1. PT. Meiji Indonesian Pharmaceutical Industries
(1974年設立)

- 1994年より、日本向けに輸出開始
- 設備増強し、ペニシリン製剤の生産拠点化
大手製薬企業からの製造も受託

2. Thai Meiji Pharmaceutical (1979年設立)

- 2004年より、日本向けに輸出開始
- 「アムロジピン」などのジェネリック製剤を製造

3. Medreich (メドライク) (2015年子会社化)

- 2017年10月よりジェネリック製剤4品目の販売を開始
- 以後、生活習慣病や消化器領域など、大幅な需要増が見込まれ、高品質で安価な製剤の安定供給が求められる領域に集中して品目数を拡大
- 日本向け30億錠の製造キャパシティを生かし、コストメリットの発現とBtoBビジネスの拡大を目指す



(メドライク Unit 7 外観)

Medreich

: 製造工程

製剤バルク



日本人技術者の指導の下、「Meiji 品質保証ポリシー」に基づき製造

Meiji Seika ファルマ

: 試験検査、包装、
出荷可否決定

最終包装製品



小田原工場での
日本市場向け
品質の確実な担保

Meファルマ

: 販売、受注、配送

最終包装製品



卸

参考資料

2017年度 上期連結経営成績



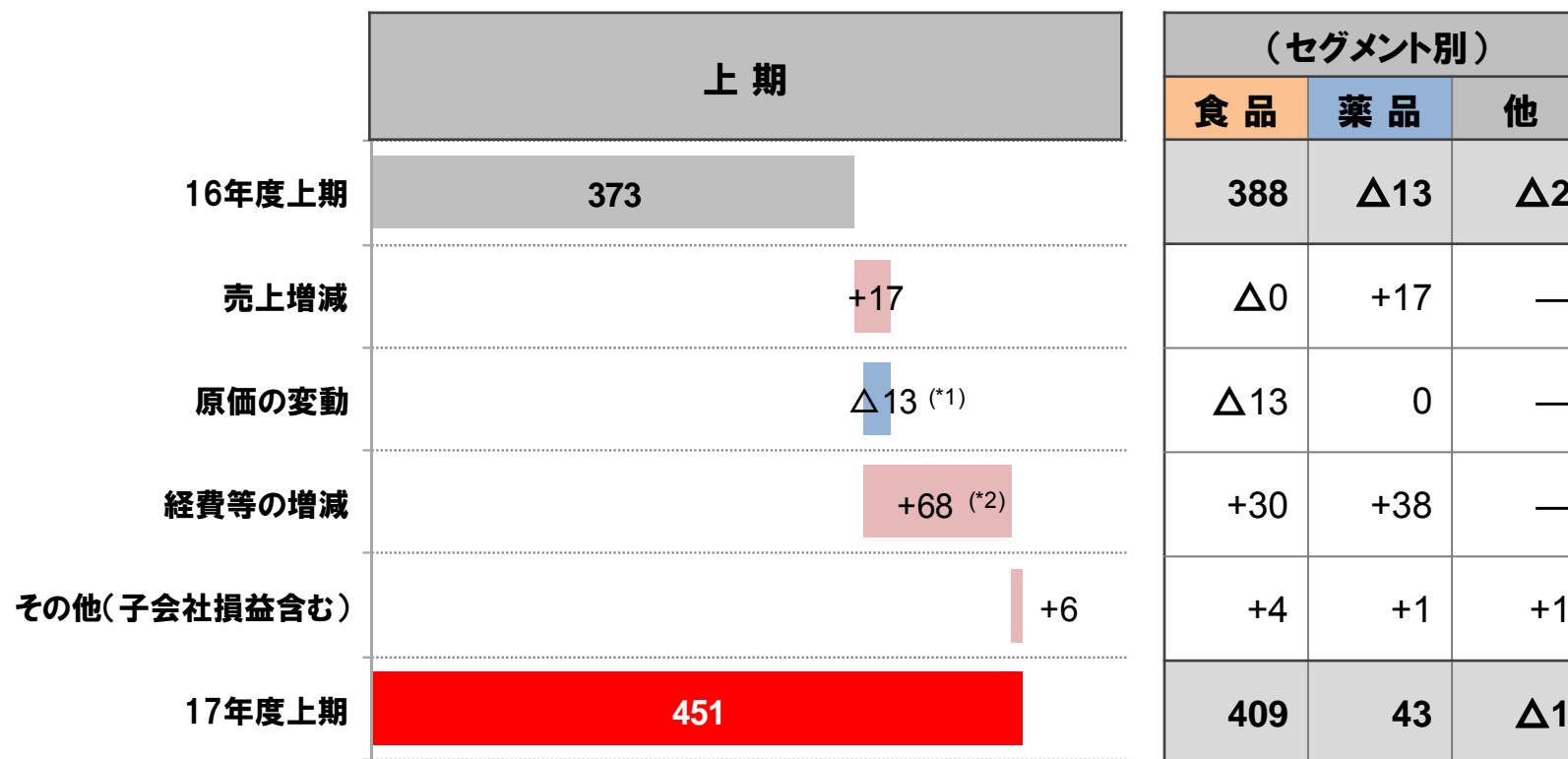
(単位:億円)

	17年度		主な増減要因
	上期実績	前年同期比	
売上高	6,114	+0.8% +47	— (P5・6参照)
営業利益	451	+20.9% +78	— (P5・6参照)
営業外収益	19	+39.8% +5	<ul style="list-style-type: none"> 持分法による投資損益 4億円の増益効果 (前期)持分法による投資損失(1) (今期)持分法による投資利益(3)
営業外費用	9	△63.9% △16	<ul style="list-style-type: none"> 為替差損益 17億円の増益効果 (前期)為替差損(16) (今期)為替差益(1)
経常利益	461	+27.8% +100	—
特別利益	33	△36.9% △19	<ul style="list-style-type: none"> 固定資産売却益の減少(△24): (前期)工場跡地売却益 子会社清算益の計上(+4): 明治乳業貿易(上海)の清算終了
特別損失	26	+3.7% +0	<ul style="list-style-type: none"> 災害による損失の減少(△12): (前期)日本罐詰の被災 固定資産廃棄損の増加(+10)
税金等調整前純利益	468	+20.5% +79	—
法人税等	148	+2.3% +3	—
非支配株主に 帰属する純利益	5	+1215.1% +5	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	314	+29.2% +71	—

2017年度 上期連結営業利益 増減分析



(単位:億円)



*1: 主な内訳 … 【食品】原材料調達コスト増△10、その他△3

*2: 主な内訳 … 【食品】拡売費・宣伝費減+26、物流効率化など+4

【薬品】固定販売費減+31、原価低減等+7

2017年度上期 連結財政状態



(単位:億円)

	17年9月末		主な増減要因
	実績	前期末比	
流動資産	3,877	+2.7% +100	・受取手形・売掛金の増加(+108) ・たな卸資産の増加(+87):菓子原料、薬品の新規発売品目など
固定資産	5,312	+4.9% +250	・有形固定資産の増加(+180):生産能力増強、新研究所の建設など ・投資有価証券の増加(+81):時価評価増など
資産合計	9,189	+4.0% +350	—
流動負債	3,325	+5.8% +183	・短期借入金・CPの増加、社債の償還(+86) ・支払手形・買掛金の増加(+82)
固定負債	1,167	+3.8% +42	・社債の新規発行、長期借入金の減少(+15)
負債合計	4,493	+5.3% +226	—
株主資本	4,440	+1.8% +80	・利益剰余金の増加(+219) ・自己株式の増加(△138)
その他の包括利益 累計額	176	+36.6% +47	・その他有価証券評価差額金(+47)
非支配株主持分	79	△3.6% △2	—
純資産合計	4,696	+2.7% +124	—
有利子負債	1,396	+7.8% +101	・第3回債(100億円)の償還 ・CP(80億円)の発行 ・第7回債(100億円)の発行
自己資本比率	50.2%	△0.6pt	—

2017年度上期 キャッシュフロー、株主還元



(単位:億円)

	17年度 上期実績	前年同期比	主な内容
営業キャッシュフロー	387	+150	<ul style="list-style-type: none"> ・税前利益の増加(+79) ・法人税等の支払額の減少(+113) ・売上債権の増加(△188)、仕入債務の増加(+89) 9月末日が休日の影響など
投資キャッシュフロー	△326	△129	<ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産の取得による支出増(△113) コア商品の生産能力増強、新研究所・物流倉庫建設 など ・有形及び無形固定資産の売却による収入の減少(△18): (前期)工場跡地売却
フリーキャッシュフロー	60	+20	—
1株あたり配当金	57.5円	+12.5円	—

2017年度 計画



(単位:億円)

		上期		下期		通期	
		実績	前年同期比	計画	前年同期比	計画	前年同期比
連結	売上高	6,114	+0.8% +47	6,508	+2.4% +152	12,623	+1.6% +199
	営業利益	451	+20.9% +78	513	+0.4% +3	965	+9.2% +81
	経常利益	461	+27.8% +100	514	△2.6% △13	975	+9.7% +87
	親会社株主に帰属 する当期純利益	314	+29.2% +71	334	△8.4% △30	645	+6.1% +37
食品	売上高	5,342	△0.2% △10	5,560	+1.7% +91	10,902	+0.7% +81
	営業利益	409	+5.4% +20	452	+2.4% +10	861	+3.8% +31
薬品	売上高	777	+7.8% +56	954	+6.6% +60	1,732	+7.2% +116
	営業利益	43	— +56	66	△7.0% △4	110	+90.3% +52

2017年度 食品セグメント内 事業別計画



(単位:億円)

		上期		下期		通期	
		実績	前年同期比	計画	前年同期比	計画	前年同期比
発酵 デairy	売上高	2,722	+0.9% +24	2,784	+1.3% +35	5,507	+1.1% +60
	営業利益	246	+2.5% +5	282	+1.6% +4	528	+2.0% +10
加工食品	売上高	919	Δ2.7% Δ25	872	Δ2.6% Δ23	1,791	Δ2.7% Δ48
	営業利益	40	Δ11.5% Δ5	30	+5.9% +1	70	Δ4.8% Δ3
菓子	売上高	699	+0.0% +0	926	+2.5% +22	1,625	+1.4% +22
	営業利益	72	+16.1% +10	120	Δ0.7% Δ0	193	+5.0% +9
栄養	売上高	490	+1.2% +5	458	+5.9% +25	948	+3.4% +31
	営業利益	72	+3.1% +2	55	+21.0% +9	127	+10.1% +11

2017年度 食品セグメント内 事業別計画



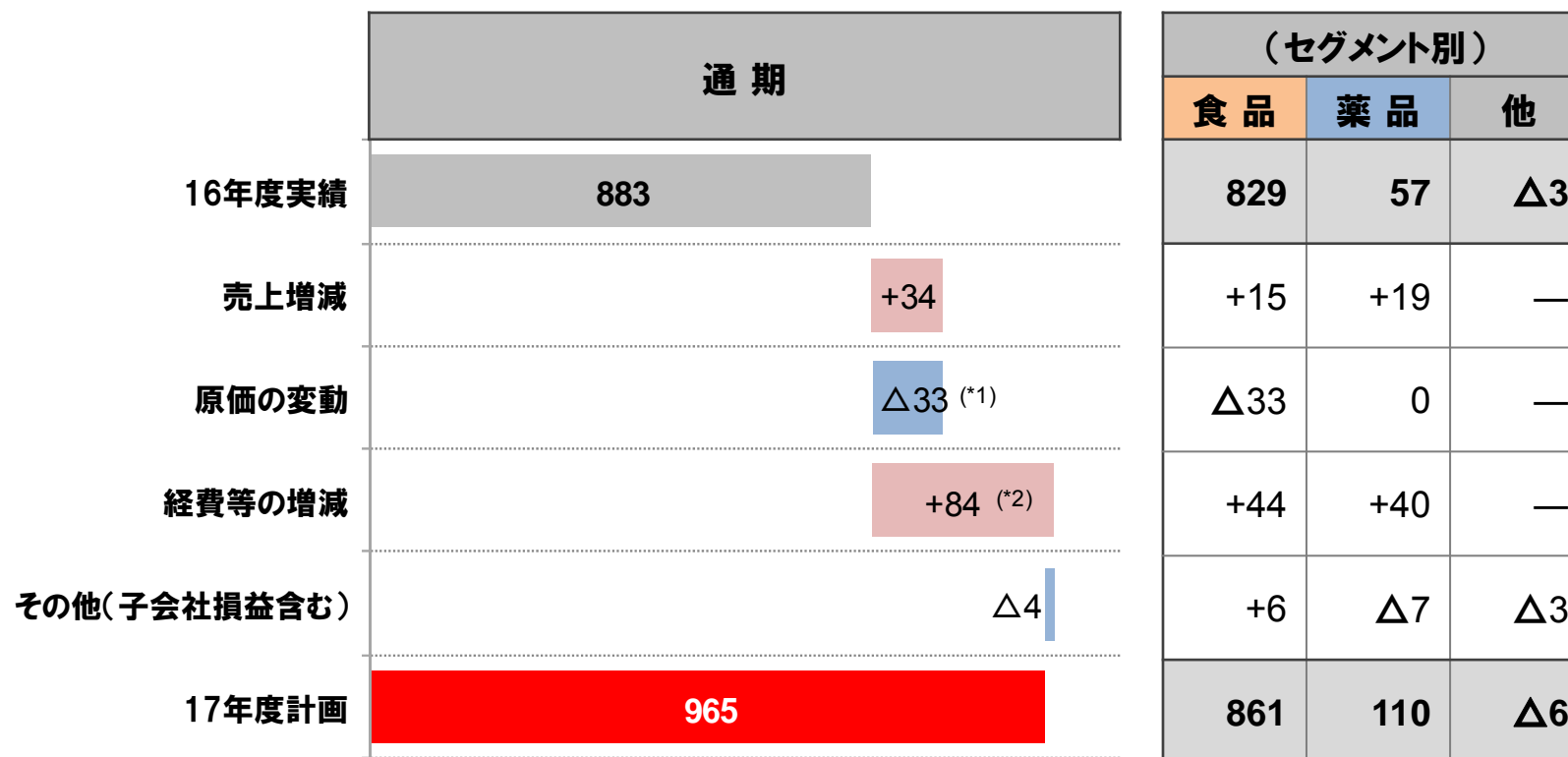
(単位:億円)

		上期		下期		通期	
		実績	前年同期比	計画	前年同期比	計画	前年同期比
その他	売上高	1,812	+1.6% +28	1,789	Δ0.9% Δ16	3,602	+0.3% +11
	営業利益	30	+18.2% +4	27	Δ8.9% Δ2	58	+3.6% +2
全社費用 消去および	売上高	Δ1,302	— Δ43	Δ1,271	— +48	Δ2,573	— +4
	営業利益	Δ53	— +3	Δ63	— Δ1	Δ116	— +1

2017年度通期 連結営業利益 増減分析



(単位:億円)



*1: 主な内訳 … 【食品】原材料調達コスト増△37、その他+4

*2: 主な内訳 … 【食品】拡売費・宣伝費減+32、物流効率化など+12

【薬品】固定販売費減+8、原価低減等+32

2017年度通期 キャッシュフロー、株主還元



(単位:億円)

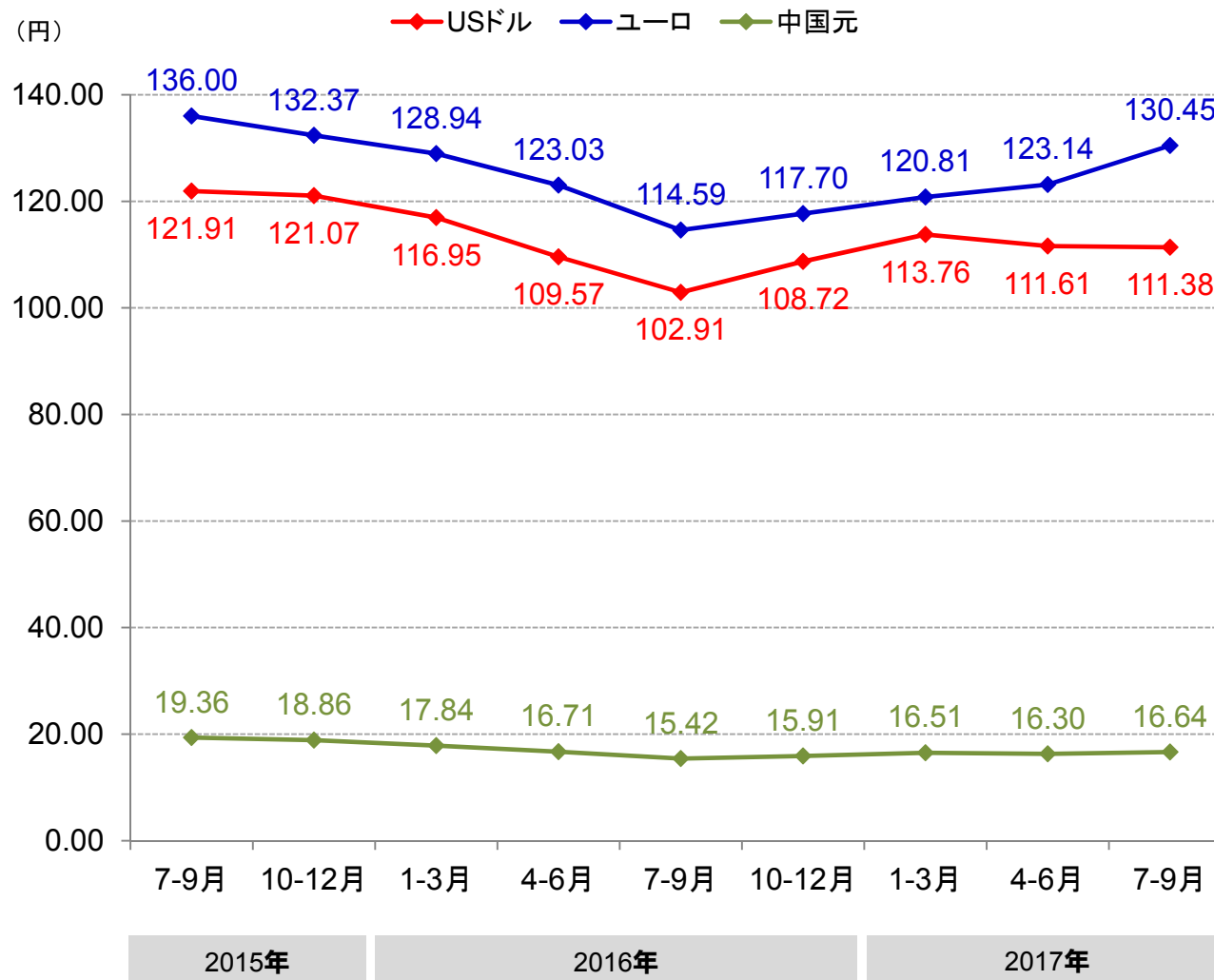
	17年度		主な内容
	計画	前年同期比	
営業キャッシュフロー	918	+100	・主に利益増による
投資キャッシュフロー	△648	△206	・設備投資額の増加 など 【設備投資額】 食品 599億円 (前年同期比 +155) 薬品 111億円 (前年同期比 +50)
フリーキャッシュフロー	270	△106	—

1株あたり配当金	115円	+5円 (2Q) 57.5円 (期末) 57.5円	
配当性向	25.9%	△0.7pt	—
ROE	13.9%	△0.3pt	—

主要通貨と当社平均レート



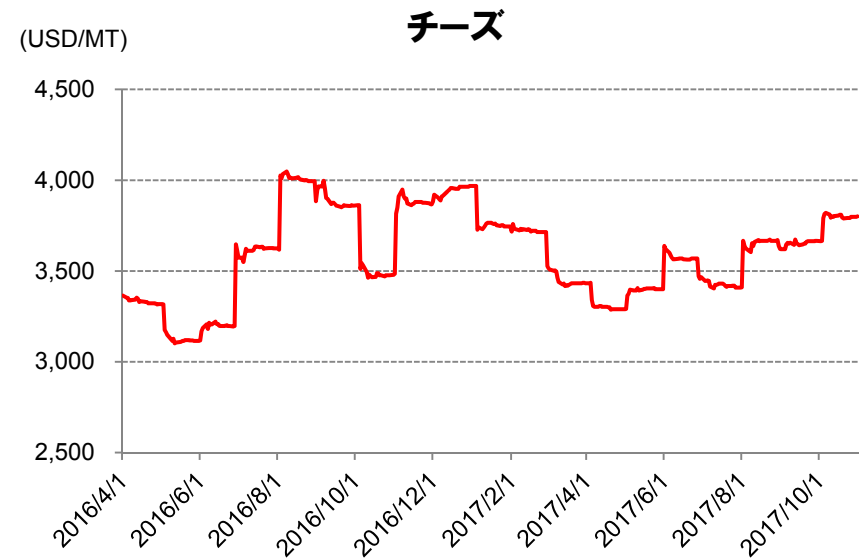
主要通貨と当社平均レートの推移



17年度計画の為替前提

USD	食品 108円 薬品 110円
ユーロ	食品 120円 薬品 125円
中国元	食品 17円 薬品 16.50円

主要輸入原料相場の動向



主要製品の国内シェア



牛乳



シェア **22.3%**
<No.1>

ヨーグルト



シェア **41.9%**
<No.1>

ナチュラルチーズ



シェア **10.8%**
<No.3>

アイスクリーム



シェア **8.9%**
<No.5>

チョコレート



シェア **25.8%**
<No.1>

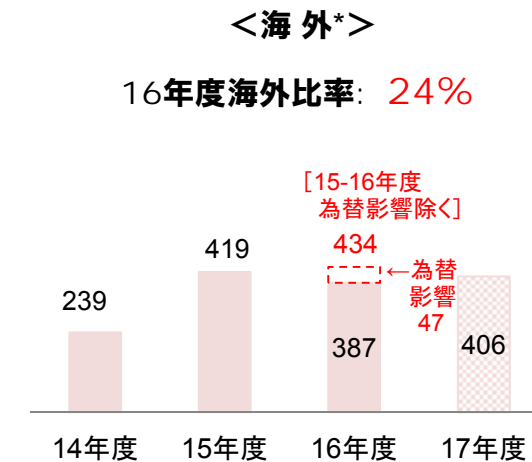
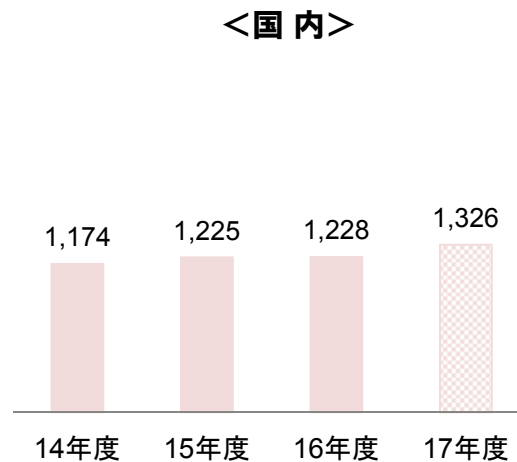
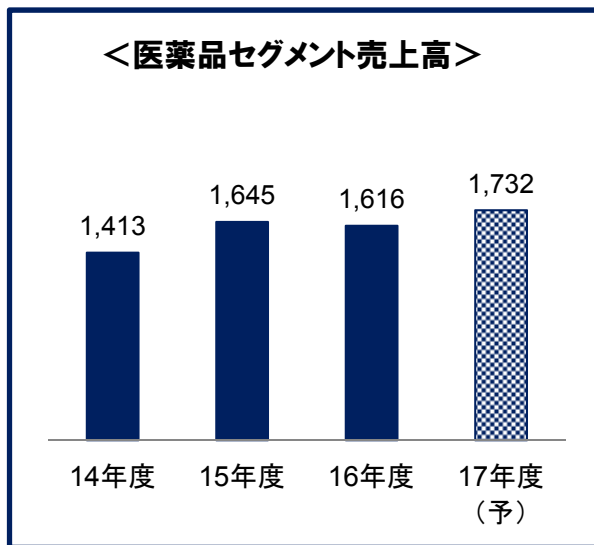
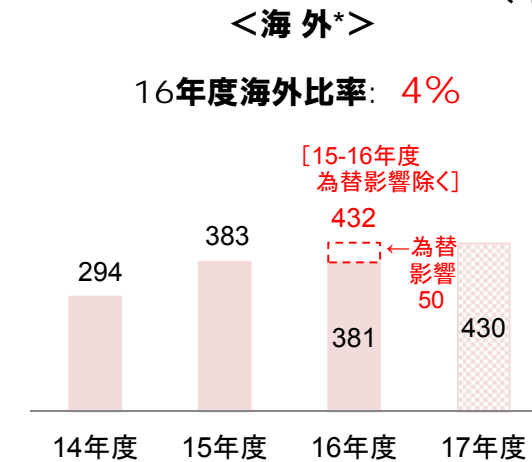
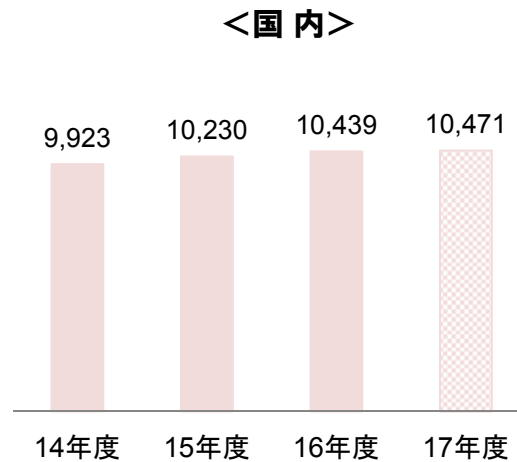
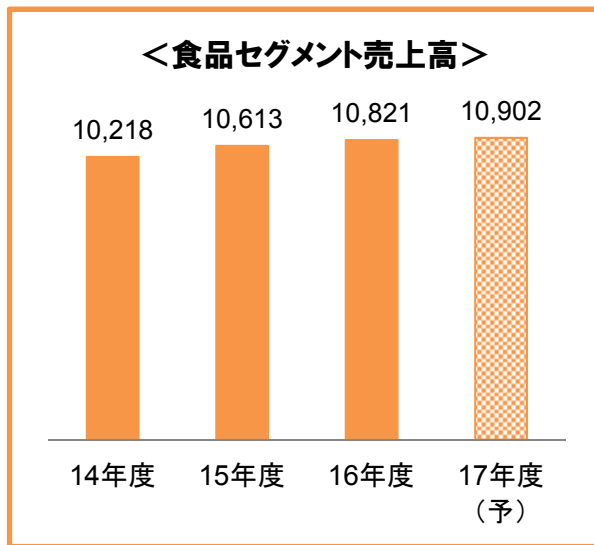
粉ミルク



シェア **39.2%**
<No.1>

地域別売上高の推移

(単位:億円)



(注) 海外売上高は、単体の輸出事業および海外グループ会社の売上高(消去後数値)

医療用医薬品 開発パイプライン



現在のパイプライン (◆自社創薬)		17年度	18年度	19年度
感染症	ME1111【爪真菌症治療薬】◆	P II		
	ME1100 アルベカシン【院内感染肺炎/人工呼吸器関連肺炎治療薬】◆	P Ib (海外)		
	OP0595【β-ラクタマーゼ阻害薬】◆ ※	Phase I		
中枢神経系	SME3110 フルボキサミン適応拡大【強迫性障害治療薬(小児)】	承認		
	ME2112 ジプラシドン【統合失調症治療薬】	Phase III		申請
	ME2125 サフィナミド【パーキンソン病治療薬】 ※	Phase II/III	申請	
	リフレックス適応拡大【線維筋痛症治療薬】	P II		
新領域	SP-02L ダリナパルシン【再発・難治性末梢性T細胞リンパ腫治療薬】	Phase II		
	DMB-3111【トラスツズマブ(ハーセプチン バイオ後続品)】 ※	導出 (PI終了)		
	DMB-3113【アダリムマブ(ヒュミラ バイオ後続品)】	P I		

(注) ※印は導出した品目。導出先や対象地域などの詳細については、当社ホームページをご参照ください

農薬・動物薬 開発パイプライン



現在のパイプライン (◆自社創薬)		17年度	18年度	19年度
農薬	ME5382【殺虫剤】◆			承認
	ME5343【殺虫剤/Afidopyropene】BASF社と共同開発◆ <small>(Meiji Seika ファルマと北里研究所との共同研究で発見)</small>	申請 (海外)	承認 (海外)	
	ANM-138【殺虫剤/Flometoquin】日本化薬と共同開発◆		承認	
	ME5223【殺菌剤/Fenpicoxamid】Dow AgroSciences社と共同開発◆	申請 (海外)		承認 (海外)
動物薬	ME4129適応拡大【抗菌性注射剤】	申請		承認
	ME4136【抗菌性注射剤】	申請		承認
	ME4137【抗菌性注射剤】		申請	
	ME4624【ワクチン】	申請		承認



meiji

